

**ネイティブ英語環境
アウトラウドイングリッシュコース
はじめに**

企画・製作:

ネイティブ英語環境

著作権について

本特別レポートは、(以下、本教材と表記)は、著作権法で保護されている著作物です。

本教材の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

本教材の著作権は、N2インタラクティブジャパン株式会社にあります。

N2インタラクティブジャパン株式会社の書面による事前許可なく、本教材の一部または全部をあらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー等)により複製、流用および転載、転売(オークション含む)することを禁じます。

使用許諾契約書

本契約は、本教材を購入した個人・法人(以下、甲と称す)とN2インタラクティブジャパン株式会社(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本教材を甲が受け取り、パッケージを開封することによりこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本教材に含まれる情報(ノウハウ、テクニック等)を、本契約に基づき甲が独占的に使用する権利を許諾するものです。

第2条 禁止事項

本教材に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲が本教材から得た情報を乙の書面による事前許可を得ずして出版、講演活動及び電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社及び関連組織(販売店・代理店等)においてのみ本教材に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に反した場合、本契約の解除にかかわらず、乙に対し、その違約金として、違反点数と販売価格を乗じたものの15倍の金額を払うものとします。

第5条 責任の範囲

本教材の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても、乙は一切の責任を負いません。

学習の手引き

【重要！】この手引の最後にあるコース決定のテストを必ず受けてからご自分が登録するコースを決めてください！

【注意！】この手引を読むことは、あなたの英語学習の近道となり、この手引に書かれている効果的な学習法を理解し、実践することは必ずあなたの英語学習の手助けとなります。

ただ漫然と読む、読む飛ばすのではなく理解し、「実行するんだ」という気持ちを持って読まれることをお勧めします。

●家にいながら留学環境 ～英語を環境に組み入れる～

この教材のコアコンセプトで、非常に重要ですので、注意してお読みください。

このコンセプトを理解するかしないのかで、あなたの英語人生が変わってくるといっても過言ではありません。

今のあなたの生活を見てみましょう。

あなたは朝起きて、
テレビをつけたり、新聞を読んだりして、
朝食を食べ、
着替え、
家を出て、
駅につき、
電車に乗り、
駅を降りて会社まで歩き、
会社につき、
仕事をして、
会社を出て駅まであるき、
電車にのり、
家に帰り、
TV をつけ、
夕食を食べる、
家事や電話をしたり、お風呂に入り、インターネットをしたりして、
寝る。

毎日、大体こんな感じですよ？

この一日の中の時間にひとつだけ共通点があります。
会社でも家でも電車に乗っているときもテレビを見ているときも・・・
なにかが共通しているのです。
なんだと思いますか？

それは、

日本語を聞いている

ということです。

一日中、ずーっとあなたはいわば、「日本語ネイティブ環境」にいるわけです。

つまり、

電車の中、家庭、テレビ、職場、スーパー、カフェ・・・の中で人が日本語をしゃべっているのを聞いているのです。寝ているのが6 時間として、18 時間ほど、日本語を、ずーっと聞いているのです。

職場や、家庭とかで自分もしゃべりますよね。
しゃべったり、書いたり、読んだりしているのです。

なので、現在、あなたは日本語ネイティブ環境にいるわけです。
現在、日本語ネイティブ環境にいるからこそ、あなたは日本語の単語を忘れてたりしないわけです。
毎日聞いたりしゃべったりしていますからね。

「聞く」ということは蓄積することです。

テレビでよく流れているCMを自然と覚えてしまうように、英語も無理におぼえようとしなくても、聞き続けていけば言い回しや、ある単語と前置詞の組み合わせや、単語などが自然と脳に記憶されるのです。

英語を話せるようになりたいなら、あなたに「日本語ネイティブ環境」を抜け出し、「英語ネイティブ環境」を生活の一部にしてもらわないといけません。

現に、私のまわりの英語をマスターした人たちに聞いてみたところ、彼らはたとえ留学経験者であっても日本にいうちから生活を「英語漬け」にしてきた人ばかりでした。

つまり

「英語ネイティブ環境」 = 「留学環境」

なんですね。

この教材を転機にして、英語ネイティブ環境を生活に取り入れてみませんか？

では具体的にどうやって無理なく身の周りを英語ネイティブ環境にすればいいのか一緒に見ていきましょう。

たとえば・・・

教材の例文の主語や目的語を、身近なものに置き換え、練習してみる

教材の例文の目的語や主語を電車の中や看板で見たものと置き換え練習してみる

英語を聞いたら、即座に声に出して自分で繰り返してみる

英語で書かれている看板やT シャツを見たら「どんな意味かな？」と考えてみる

ひとりごとは英語で呟いてみる

仕事のメモは英語でとってみる

日記を英語でつけてみる

家ではなんとなくつけているテレビは消して、海外ドラマや英語のラジオを流す

通勤通学で聞く、iPod の中身を英語に変える

仕事の文句は英語で言う

外国人を電車で見たら何を話しているのか聞き耳を立ててみる

外国人が道で迷っていたら声をかける

ペンパルサイトなどで、外国人とメールをやり取りしてみる

英語のメルマガをとってみる

インターネットラジオで海外の英語に触れる

.....

別に完璧な英語を話そうと気負う必要はありません。

覚えたものをドンドン口に出してアウトプットしてほしいのです。

英語環境を生活に取り入れていくことで、自動的にあなたの生活は留学環境に近くなり、頭の中に「英語が蓄積」され、英語を話すこと 聞くことに慣れ、日々スピーキングの自己練習をすることで、いざ聞きたいときに聞け、話したいときに正しい英語が口から出てくるようになるのです！

まずは500～1000時間を目標に聞いて聞いて聞きまくってください。

理解できなくても注意を向けなくてもBGMのようにまず聞くことから始めましょう。

一般的に500～1000時間を音読もしながら聞くと英語を英語のまま理解する「英語回路」が生まれるといわれています。

●英語ができるとは？

これを読んでくださっているあなたは英語ができるようになりたいと思っていますよね？

そのためにいろいろな英語勉強法を試してきたと思います。

本で独学したり、英会話学校に通ったり・・・でも結果は満足できるものではなかったのではないしょうか？

日本人の英語学習者の方で大変多いタイプに

「読めるけど、話せない」

「聞けるけど、話せない」

があります。

この教材は、英文や英単語自体をみると

「な～んだ！簡単じゃん」

というレベルのものかもしれません。

それではちょっとテストしてみましょう。

あなたは次の日本語文を即座に口頭で英語に変えられますか？

1. 言った通りでしょ？
2. 誰が気にするっていうんだ？
3. 今あなたはいくらお金が必要なのですか？

どうですか？

即座に英語を口から出すのはなかなか思ったようには行かないのではないのでしょうか？

下記の答えをみていただければわかるように、非常に単純な文法が使われていると思います。

実はこれらの言い方というのはすべて中学1年で学ぶもの
です。

このテキストでカバーしている内容というのは、高校1年生一学期程度までの英語の範囲で
す。

実は本当に日常会話で使われる英語のレベルというのは中
学英語が8,9割を占めます。

今回はリーディングが必要な方も加味して文章を読むのに対応できるように高校一年一学
期程度までにとどめています。

(答え)

1. Didn't I tell you ?
2. Who cares?
3. How much (money) do you need now?

答えをみると「な～んだ！」という感じですね？

この「な～んだ！」という英文を使いこなせるかこなせない
かで英語が話せるかどうかが決まるのです。

この教材を作成するにあたり、さまざまな英語マスターたちから話を聞く機会がありました。

彼らのほとんどは英語ネイティブ環境に身をおいていただけではなく、「音読」をなんらかの形で取り入れた
英語学習法をされていました。

そう、この「な～んだ」レベルの基礎文法をきちんと理解し、
音読することで文法を舌に乗せ慣れることが習慣となり、い
ざ！というときにキチンと文法に則った英語が口から出て

くるようになるのです。

この教材では中学文法のはじめからおさらいしていますが、

たまに

「中学文法なんてわかってるよ！」

という声をいただきます。

たくさんの英語学習者は、わかっていると言いながら、頭ではわかっているも上記のような単純な文を「口頭で言ってください」と即座に言われると、おろおろしてぎくしゃくした口調になってしまいます。

なので、リスニングと音読を続け、普通に話すペースの英語が理解でき、答えが反射的に英語で口から飛び出してくるようにすることが必要です。このアウトラウドイングリッシュコースを受講することであなたは中学文法、そして中学～高校の途中まで習った1200単語以上の単語をマスターすることができます。

しかもそのレベルの事項がマスターできてないと、テストで落ちてしまいますから「わからないまま、すすむ」ということがあります。

「え、テスト?!」と思いましたか?

大丈夫です。この講座で学ぶ内容は中学校で学んだもの。
それが何十年前のことであろうと、脳の片隅には残っています。

その「過去の英語記憶」を聞き、読み、口に出し、「使える」ようにしていくプロセスがこの講座です。でもそれはこの手引に書いてある通りにやればかならずできるようになります。安心してください。

この塾を終了するころには英会話に必要な不可欠な基礎的な英語力が身に付き、リスニング力もついて、「英語を聞いて理解し、切り返す」ことができるようになっていますよ。

実際の学習要領

超初心者・初級合わせてレベル1から13まであります。

それぞれのレベルの説明は下記の通りです。

初 級 超 初 心 者	Level 13 仮定法過去、間接疑問を理解、英文を読むのに	1260 語
	Level 12 否定、関係代名詞を理解できる	1140 語
	Level 11 過去完了を理解している	1020 語
	Level 10 受け身、現在完了が理解できる	960 語
	Level 9 係り結び、比較が理解できる	860 語
	Level 8 SVOO、SVOC、接続詞が理解できる	760 語
	Level 7 不定詞、使役、動名詞が理解できる	700 語
	Level 6 未来形、助動詞が理解できる	570 語
	Level 5 前置詞・過去形をマスターしている	450 語
	Level 4 命令文・提案文が作れる	300 語
	Level 3 複数形、冠詞、代名詞、数を理解し英語を聞くのに抵抗がない	270 語
	Level 2 基本的な疑問文が作れる	210 語
	Level 1 英語で発話・挨拶ができる	90 語

語彙力

それぞれのレベルは、自動的に進むことはできず、ウェブ上の試験で8割以上をとって初めて次のレベルにすすむことができます。

試験はそのレベルの一番最後のレッスンが終わった時点で、配布されるメールにURLが書かれていますのでそこにアクセスして受けてください。試験は単語・文法・リスニングから構成されています。

●コースの内容

a) 単語と文法

単語(10個~12個)と文法は毎日、メールが届きます。

文法には練習問題がついており、単語の意味とともに、後から送られる「答え合わせメール」

で答えが確認できるようになっています。

練習問題は綴りを覚える意味でも必ず実際に書くようにするとさらに記憶力が高まります。

b) 音声

メールにはそのレッスンの音声聞けるURLが記載されています。

音声を聞き、声に出して単語や文法の例文を**毎日5回以上発音されるとリス**

ニング力とスピーキング力の両方が上達します。

また、単元を通した音声はメールで配られますので、これを毎日聞くようにすると単語を覚え、文法力をつけ、リスニングを高めるうえで役立ちます。

c) テスト

そのレベルのレッスンがすべて終わると、ウェブ上でテストを受けていただきます。

次のレベルには自動的に進むことはできず、ウェブ上の試験で8割以上をとって初めて次のレベルにすすむことができます。

試験はそのレベルの一番最後のレッスンが終わった時点で、配布されるメールにURLが書かれていますのでそこにアクセスして受けてください。試験は単語・文法・リスニングから構成されています。

テストで8割以上取れると、次のレベルにすすむためにメールアドレスをご登録いただく画面が出てきますので指示に従ってメールアドレスをご登録ください。8割に満たない場合は次のレベルにはすすめませんので、再度その単元をおさらいして再度試験に臨んでください。試験問題は変更されません。

d) 添削指導

各レベルごとに、添削指導が一回受けられます。試験と一緒に問題が配布されます。

これをメールで提出されますと3日以内に添削して返信いたします。

これは自由参加で、レベル合格には関係ありませんが、ライティング力を高めたい方はご参加されることをお勧めします。

なお、英訳の内容はその単元で学んだ単語や文法が身につければ必ず書くことのできる内容です。挑戦してみてくださいね。

e) 発音動画セミナー

不定期で、発音動画セミナーを配信いたします。

正しい発音を身につけることはリスニング、スピーキングにおいて不可欠なので、特に日本人が間違えやすい発音を中心に動画で詳しくみていきます。

f) 英語ライブラリ

このアウトラウドイングリッシュコースを受講されている間は英語ライブラリにアクセスできます。

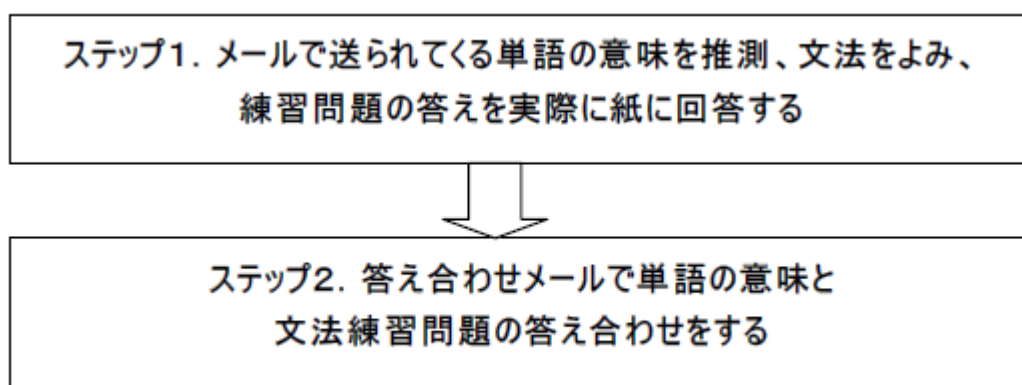
英語ライブラリとはなにかというと、英語環境をあなたのものにしていただくために、一度は英語でよみたい名作や童話を音声と共に50タイトル以上取り揃えたライブラリです。たとえば「赤毛のアン」「プライドと偏見」「シャーロック・ホームズシリーズ」など・・・

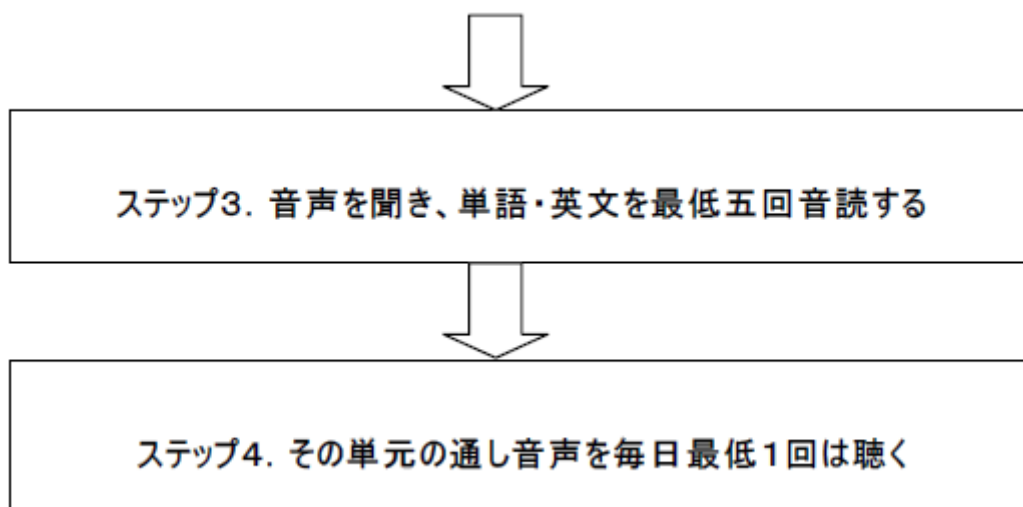
また、ネイティブ英語環境関連でよくいただく疑問・質問から英語の学習にはつきものの、スラングの抜け出し方、絶対恥をかかない英語での物の頼み方など、英語エッセンスがぎゅっと詰まったオーディオセミナーも入っています。

このライブラリの活用の仕方はたとえば好きな童話や小説を対訳を本屋で購入し、英語と日本語を交互に見ながら読んだり、音声を通勤・通学途中や家事の途中に聞いたり・・・上手に使って英語環境をあなたのものにしてください。

さて、おさらいしましょう。

実際毎日やっていただく学習方法は下記の4ステップです。





具体的にみていきましょう！

ステップ1. メールで送られてくる単語の意味を推測、文法をよみ、練習問題の答えを実際に紙に回答する

まず、メールに書かれているカッコで与えられた単語の意味を推測してください。ノートに書きだすといいでしょう。意味を推測しながら、その単語をちゃんと音読できるか確認するためにつぶやいてみてください。

それが終わったら文法を一通り読み、練習問題に取り組んでください。

答えは必ず書いてくださいね。

記憶があいまいだと案外書けないものです。書けたとしてもうっかりした文法ミスがある場合もあります。それらを明確にしてきちんと身につけるためには書いてみるのが不可欠です。書けない英文はイザというとき、口からも出てきません・・・

ステップ2. 答え合わせメールで単語の意味と文法練習問題の答え合わせをする

答え合わせメールをみて自分の推測した単語の意味・作った英文と答え合わせしてください。

簡単に単語の意味や英文が出てきた場合でも、この答えあわせはかならず行ってください。

中級者でも、口頭で英文をつくと、be 動詞や三単現のs などで間違いを犯しがちです。

もちろん、間違っても通じますが、このような間違いを訂正せずに続けると、いつまでも基本的な間違いを続けることになるので必ず答え合わせをすることをお勧めします。

ステップ3. 音声を聞き、単語・英文を最低五回音読する

このステップ3がもっとも大切なステップです。

たいがいの英語学習者はステップ1、2までで終わってしまいます。

しかしこのステップ3こそが、「わかるけど話せない人」と「話せる人」の違いをもたらす違いなのです。

日本で長年英語を教えている外国人に聞いても、

「日本人は圧倒的に口頭練習が足りない」

といいます。

英語を話すことを身につけるためには、必ず英文を何回か繰り返し音読することが重要です。

音読する、というと単純でつまらない作業のように聞こえますが、**英会話というのはい**

換えれば「相手がいる英語音読」に他なりません。

音読ができない文章や単語は、いざ外国人相手に使おうとしても使えないのです。

音読というシンプルなステップをコツコツやることこそ、英語を話せるようになる近道にして唯一の方法なのです。

音読は単純です。

英文を見ながら、何度か口に出して発音します。

見ながら、自然に話す口調で読み上げてみてください。

音声を聞いてネイティブが言っている通りに、感情を込めて発音するようにするとさらに良いですよ。

言い慣れてきたかな、と思ったらテキストから目を離して言うてみてください。

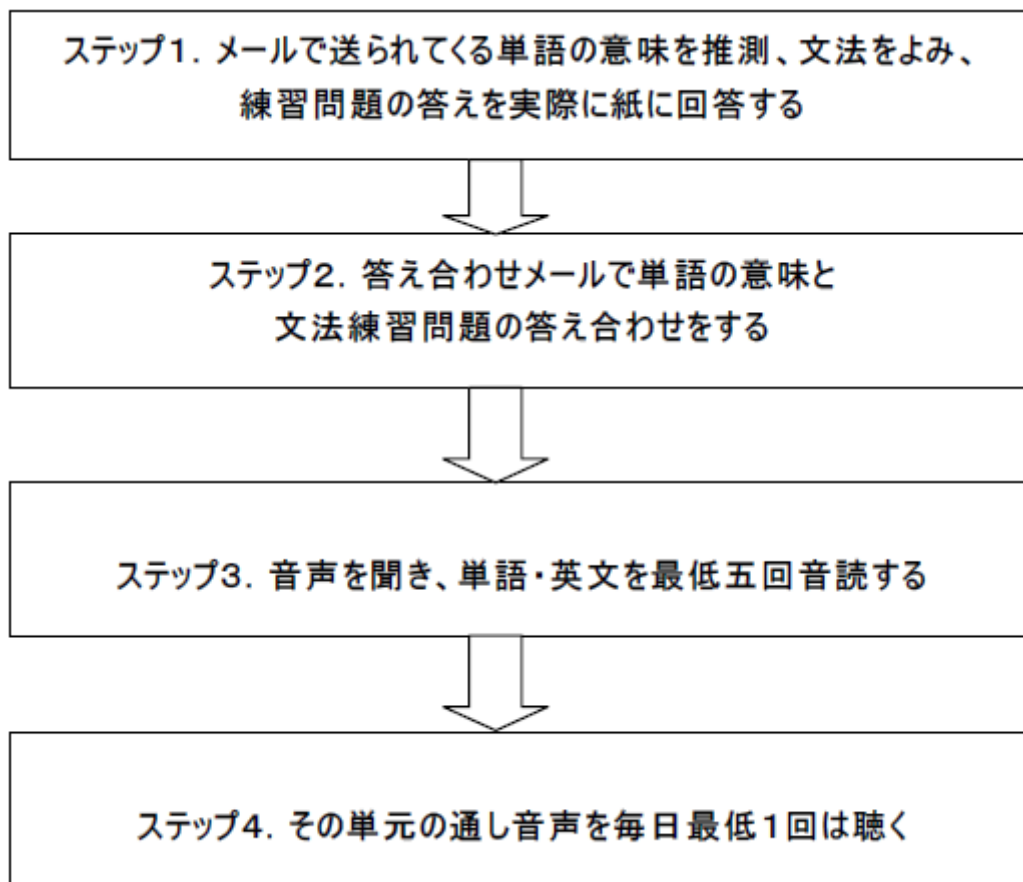
そのときも実際の場面で、つぶやいているように感情を込めて発音してみてくださいね。

ステップ4. その単元の通し音声を毎日最低1回は聴く

その単元を通した音声は毎日のメールで配られていますので、これを毎日聞くようにすると単語を覚え、文法力をつけ、リスニングを高めるうえで役立ちます。

ただ流しているだけで、意識しなくてもいいので最低毎日1回は聴くようにしましょう。

もう一度まとめますと、やるべき学習法は下記4ステップです。



もし、日本語を見ただけで口からスルスルと英文がでてくる「こんなの簡単すぎる～！」という方は、音読は一回だけにとどめて、次にドンドン進んでくださいね。

●音声の使い方

この教材には音声がついています。

音声を使って学ぶと、より大きな成果を上げることができます。

英語の後にポーズ(空白)が入っているので、その間に真似をして同じ英語を言うてみてください。

聞き取った英語を即座にいう練習は、文字を見て英語を言う練習とは異なる刺激を与えてくれます。

ただ、最初はポーズの間に英語を言うことはなかなか難しいですし、いきなり最初から音声をつかった練習をしていくと音だけを機械的に暗記してしまうことがあります。

ですので、最初に聞くときは音声の使用は発音やイントネーションを確かめる程度にとどめ、2回目以降に音声にて実際の練習を行うほうが良いでしょう。

はじめはなかなかポーズの間に反応できなかったり、英語が収まりきらないかもしれませんが、何回もチャレンジしているとだんだん慣れてできるようになってきます。

それでは準備はいいでしょうか？

下記から試験を受けて超初心者、または初級を選択して英語を学んでいきましょう！

試験はこちらから→<http://www.outloud-english.com/p/pretest.pdf>

2016年 5月23 日 第2刷発行

著者 ネイティブ英語環境

発行 ネイティブ英語環境

ウェブサイト www.outloud-english.com